

道の駅を基点とした観光振興の可能性

和歌山県岩出市「道の駅ねごろ歴史の丘」を事例に

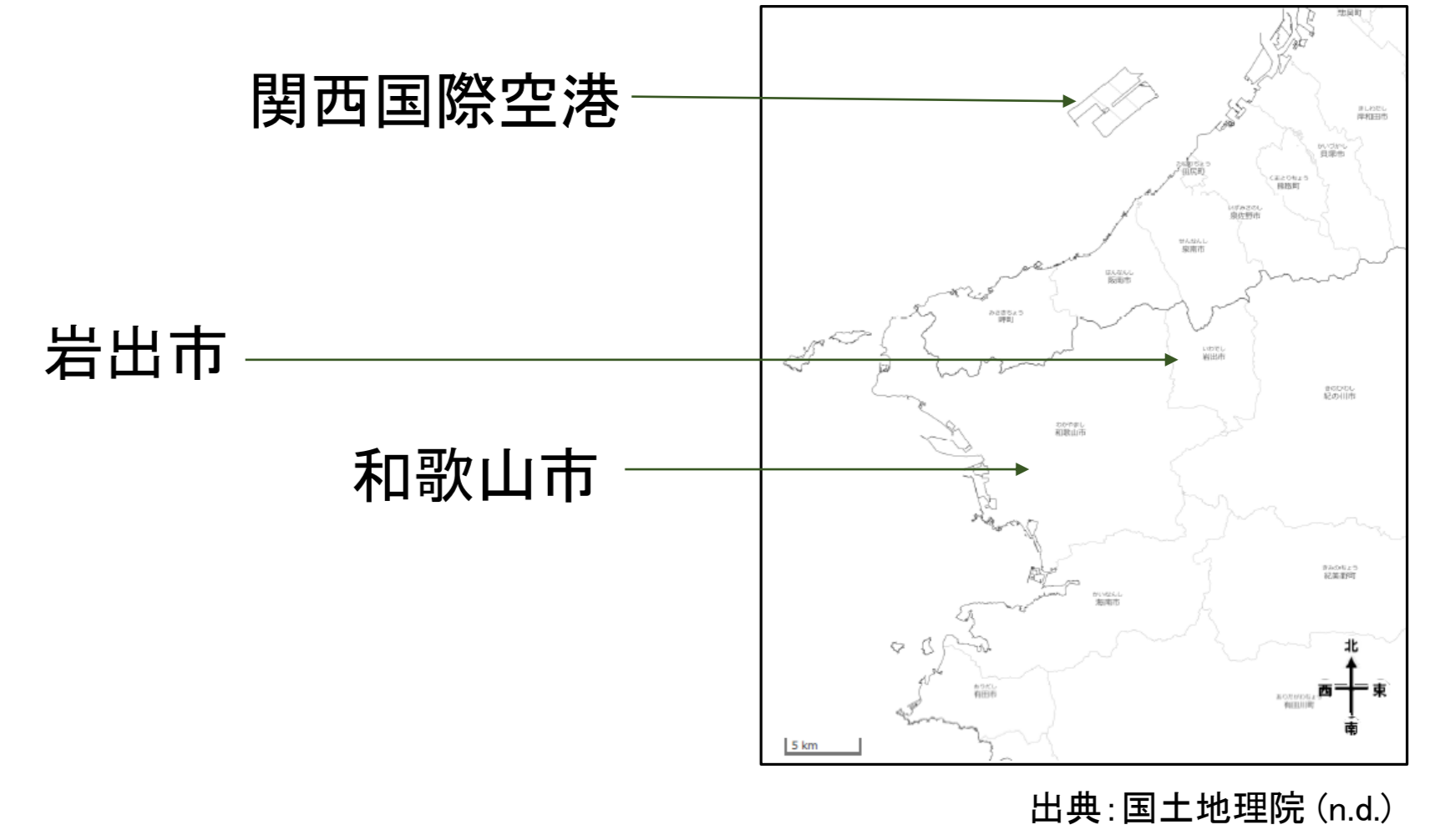
和歌山大学観光学部

榎竹菜々美、植田晴香、柏木美咲



背景

- 和歌山県岩出市は和歌山市や泉南地域、大阪都市圏への交通アクセスに恵まれており、大阪府から、また海外から関西国際空港を経て和歌山市に至る玄関都市として位置づけられている(岩出市観光協会, n.d.)。
- 国宝に指定されている大塔のある根来寺や旧和歌山県議会議事堂、和歌山県植物公園緑花センターなど観光資源も豊富である。2017年12月には岩出市根来地域に市内で2番目となる道の駅「ねごろ歴史の丘」がオープンした。こちらの道の駅では、根来地域の歴史を伝える歴史資料館、和歌山県全市町村の観光情報を提供する情報発信施設、物販・飲食施設を有しており、岩出市内の新たな観光拠点として期待されている。
- 一方、岩出市内の行政・観光関係者の間では、観光客の市内での滞在時間が短いことが指摘されてきた。しかし、観光客、また道の駅利用者の実態についてはこれまであまり明らかにされておらず、地域の課題となっていた。そのような地域の課題に取り組むため、和歌山大学観光学部では岩出市産業振興課、ねごろ歴史の丘管理協会と連携し、地域インターンシッププログラム(通称LIP)を実施した。LIPは主に和歌山県内及び大阪府南部の市町村などと連携し、地域が抱える課題を和歌山大学観光学部生が地域住民とともに発見し、その解決方法を考えるプログラムである。2019年度は岩出市LIPを含む14のLIPが実施された(和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス, 2020)。
- 本発表では、岩出市LIP活動の一環として実施した道の駅での利用者調査(プロジェクト①)及びスタンプラリーを用いた社会実験(プロジェクト②)の結果を報告し、地域の観光振興における道の駅の役割、また可能性について考察する。



出典: 国土地理院 (n.d.)

地域における道の駅の役割

- 道の駅は「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設であり、2019年3月現在、全国で1,154箇所が登録されている(国土交通省, 2019)。
- 上記の機能に加え、近年では「地域産業振興機能」と「防災機能」に対するニーズが高まってきている(関・酒本, 2016)。
- 多くの道の駅は地域経済の活性化、雇用創出の両面で地域に貢献していることが報告されている。松尾・山口(2019)によると、兵庫県猪名川町にある道の駅「いながわ」の2014年度経済波及効果は約6億8,582万円、また就業誘発者数と雇用誘発者数を合わせた雇用効果は321人であった。



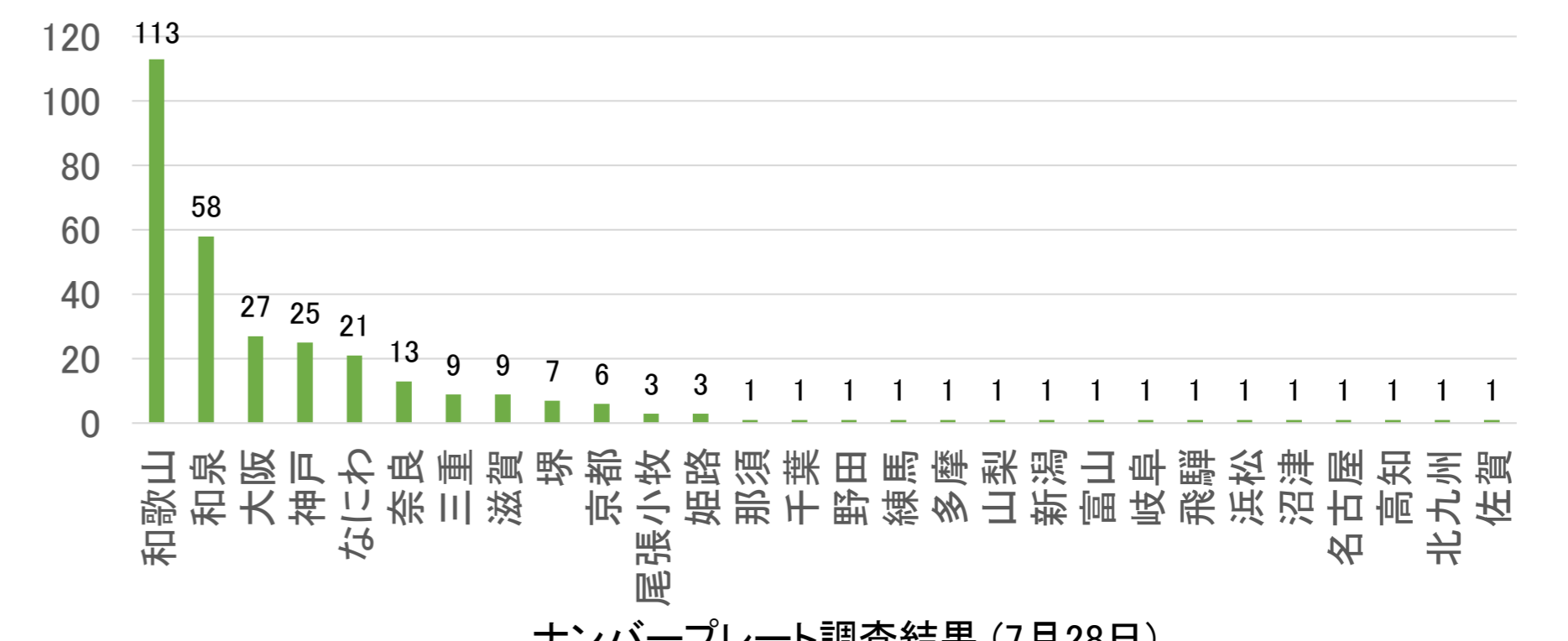
写真: 岩出市提供

プロジェクト①: 道の駅での利用者調査

- 道の駅ねごろ歴史の丘利用者の分布特性や実態を把握するため、以下の3種類の調査を実施した。
調査実施日: 2019年7月27日(土)、7月28日(日)、8月28日(火)、9月6日(金)、9月18日(木)
- ①ナンバープレート調査: 道の駅中央駐車場に駐車している車両のナンバープレート登録地を記録。
※調査方法は、過去の調査(例: いよぎん地域経済研究センター, 2009; 鈴木他, 2019)を参考にした。
- ②利用者アンケート調査: 調査票を使い「花笑み館」(物販・飲食施設)前スペースにて対面調査(面接調査法)を実施。
※アンケート調査は7月27日・28日のみ実施。有効回答者数: 126。
- ③花笑み館入店客数調査: 入店客数をカウンターを用いて計測。



道の駅駐車場の様子(7月28日午後1時頃)
写真: 発表者撮影

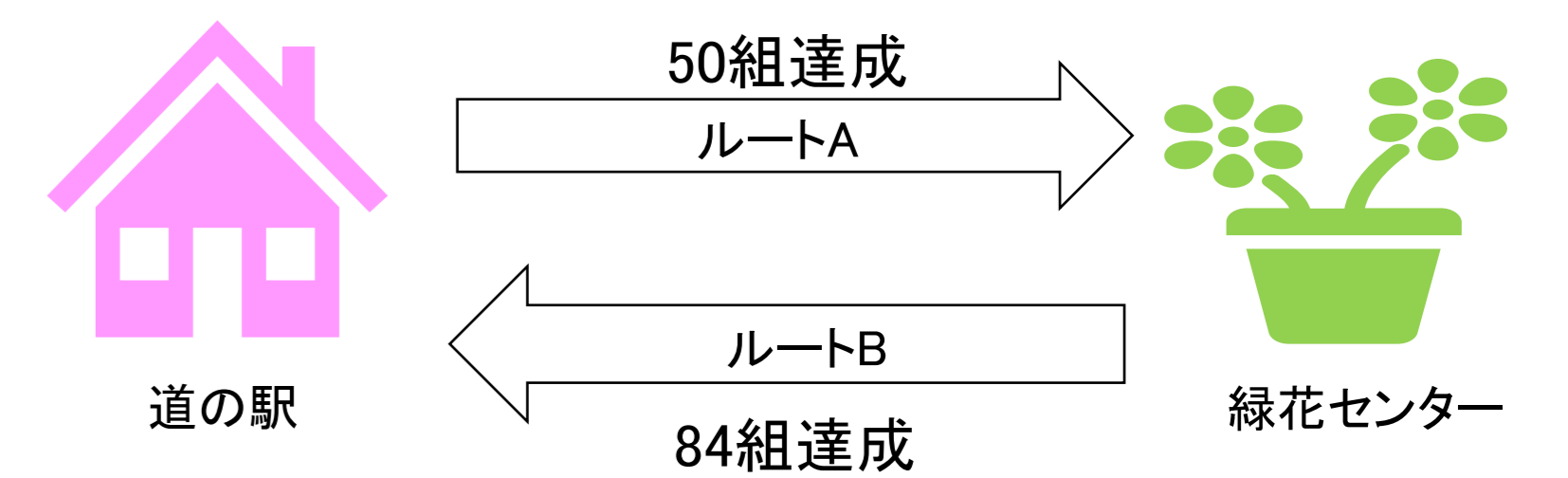


ナンバープレート調査結果 (7月28日)

- #### 利用者調査の主な結果及び調査から明らかになった課題
- 大阪府、和歌山県内からの利用者が多く(アンケート調査回答者の約70%を占めていた)。
 - 平日は和歌山県内及び大阪府南部からの来訪者が多く、週末は近畿圏内外の遠方地からも一定数の来訪者がいる。
 - アンケート調査回答者の約66%の人は道の駅を知ったきっかけとして「通りがかり」を選択しており、道の駅を事前に予定していた目的地の一つとしていなかった利用者が多かった。
 - 根来地域内での滞在は道の駅のみで、周辺施設に立ち寄っていない利用者が多い(岩出市内での滞在時間が短い)。

プロジェクト②: スタンプラリーを用いた社会実験

- プロジェクト①の結果から、道の駅利用者の多くは周辺施設に立ち寄っておらず、岩出市内での滞在時間が短いことが明らかになった。岩出市内での周遊を促し、滞在時間を延ばす方法を模索するため、道の駅と近隣施設である緑花センターを巡るスタンプラリー「歴史と花のスタンプラリー」を開発し、社会実験を実施した。
- 社会実験は根来地域に多くの来訪者が来るのが予想された根来寺かくばん祭り開催日(11月23日)に実施した。(かくばん祭り当日は道の駅、緑花センターでもイベントが開催された)



- #### スタンプラリー概要
- 道の駅と緑花センターの両施設にスタンプラリー受付場所を設置し、スタンプラリー台紙を配布(1組につき1枚配布)。
 - 両施設を訪れた人(スタンプラリー達成者)には、記念品としてピオラの苗1株を提供した。また達成者を対象に簡単なアンケート調査も実施した。
- #### 主な結果
- 合計210組にスタンプラリー台紙を配布し、134組が達成した(達成率: 63.8%)。
 - 緑花センターから参加した人(ルートB参加者)は岩出市外からの来訪者も多く、今回のスタンプラリーで初めて道の駅を利用したという人も35%以上と比較的多い結果となった。



スタンプラリー受付場所の様子
写真: 発表者撮影



スタンプラリー台紙

まとめ

- 今回の活動では、まず道の駅利用者に関するデータを収集・分析し、その結果を基にスタンプラリーを用いた社会実験を実施した。その結果、計134組がスタンプラリーを達成した。
- スタンプラリー達成者の中には、スタンプラリーをきっかけに別の施設(道の駅、緑花センター)を訪問した人も多く、課題となっていた岩出市内での滞在時間の増加には一定の効果があることを示した。他の施設とも連携、スタンプラリーとしてのコンテンツを強化することにより、市内での滞在時間の増加及び地域の観光振興に貢献できる可能性がある。
- 今回のスタンプラリーはかくばん祭りという岩出市に人が多く集まる特別な日に実施したため、今後は通常の週末や地元の人々の利用が多い平日にも実施するなど、データの蓄積を継続し、スタンプラリー常設化の可否や、スタンプラリーの効果について引き続き検証することが求められる。

参考文献

- 岩出市観光協会 (n.d.) 「岩出市について」最終閲覧日2020年6月15日, <http://kanko-iwade.com/>
- いよぎん地域経済研究センター (2009) 「しまなみ海道の通行料引き下げ後の地域への影響」最終閲覧日2020年6月15日, <http://www.iyoirc.jp/wp-content/uploads/2016/09/210820.pdf>
- 国土地理院 (n.d.) 「地理院地図」最終閲覧日2020年6月15日, <https://maps.gsi.go.jp/>
- 国土交通省 (2019) 『国土交通白書 2019(令和元年版)』
- 松尾隆策・山口三十四 (2019) 『道の駅の経済学—地域社会の振興と経済活性化—』勁草書房。
- 関満博・酒本宏編著 (2016) 『増補版 道の駅/地域産業振興と交流の拠点』新評論。
- 鈴木富之・鈴木達也・上原基輝・尾崎菜々子・布宮和花菜・平山安奈・森山優雅 (2019) 「宇都宮大生による宇都宮餃子の消費行動」『宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要』5, 93-108。
- 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス (2020) 『2019 地域インターンシッププログラム活動報告書』

※本ポスターは2019年度和歌山大学観光学部岩出市LIP(参加学生10名)の活動報告資料を基に、発表者が2020年度観光学術学会学生ポスターセッション発表用に大幅な加筆、修正を加え作成したものである。